

紙芝居の読み聞かせによる世代間交流の効果

白梅学園大学 子ども学部 4年 金子優香

1 研究の背景・動機

現代では個人主義やプライバシーの重視により、地域での世代間交流の機会が減少し、高齢者の孤立が課題となっている。この問題に対し、伝統的な交流方法である「読み聞かせ」に着目した。泰羅(2009)は、「成人であっても『絵本の読み聞かせ』聴取時に前頭前野の血流が減少する」と述べており、読み聞かせが心理的な充足感をもたらす可能性を示唆している。

実際に世代間交流会に参加し、高齢者が紙芝居に関心を示し、学生との自然な会話が生まれる様子を目の当たりにした。この経験から、紙芝居が交流のきっかけとなる可能性に注目した。紙芝居は大きな画面とセリフ性を持ち、聞き手との相互作用が生まれやすい特徴がある。本研究では、学生が公民館や誰でも食堂などの場で紙芝居の読み聞かせを行うことで、世代間交流にどのような影響を与えるのかを明らかにしたいと考えた。

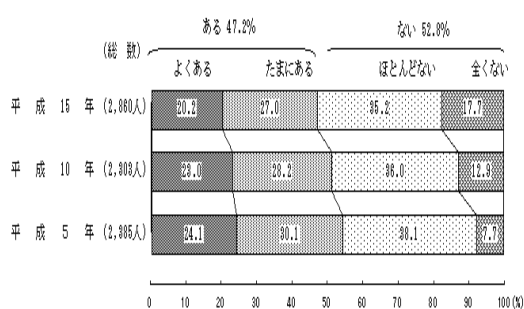


図1 若い世代との交流の機会の有無

出典：内閣府（2003）「平成 15 年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」

2 研究目的

本研究では、学生が行う紙芝居の読み聞かせが

世代間交流に与える心理的・社会的影響を明らかにし、その活用の可能性を検討することを目的とする。

具体的には、読み聞かせ前後の心理状態や世代間の対話の変化、社会的孤立感の軽減効果を検証し、絵本と紙芝居の特性の違いによる影響を比較する。また、学生が読み手となることの意義についても考察し、大学生が読み手となることで「若い人に関わる新鮮さ」や「安心感」が生まれ、高齢者と若者の双方にポジティブな相互作用が生じたかどうかを検討する。

3 方法

公民館や子ども（だれでも）食堂で、紙芝居と絵本の読み聞かせイベントを実施した。予備調査では小規模な読み聞かせ会を行い、参加者の初期的な反応をアンケートで収集した。本調査では、異なる年代の参加者を対象に、読み聞かせ前後での心理状態や交流を測定した。また、自由記述から紙芝居の効果を測定し、特に紙芝居の演出が世代間の対話に与える影響を分析した。

4 結果

本研究の調査から、以下の知見が得られた。まず、紙芝居は絵本に比べて参加者間の一体感を生む効果が高く、聞き手同士の自然な対話や感想の共有を促進する特徴があることが確認された。特に、紙芝居の大きな絵と視覚的な演出が、世代を超えた共通の話題を提供し、高齢者からは「懐かしさ」や「親しみ」を感じたとの声が多く寄せられた。

一方で、大学生が読み手となることで「若い人に関わる新鮮さ」や「安心感」が生まれ、高齢者と若

者の双方にポジティブな相互作用が生じた。

5 考察

本研究の結果から、紙芝居の読み聞かせは世代間交流を促進する重要な役割を果たすことが明らかになった。まず、紙芝居の視覚的特徴やセリフ性の高さは世代間の対話を深めるとともに、共感や記憶の共有を促進する効果が示唆された。また、大学生が主体となって活動することで、高齢者との間に新たな信頼関係が構築され、対話が深まることが確認された。こうした若者と高齢者の関係性は、イベントの枠を超え、継続的な交流の基盤を形成する可能性があるのではないかと。さらに、地域性や季節感を反映した紙芝居の題材が、多世代の自然な参加を促し、幅広い年齢層を巻き込む交流の活性化につながることも分かった。

しかし、子どもの参加はあったが 30～50 代の参加者が少なかったことや、大学生の時間的制約、会場の確保、運営コストの問題など課題点も浮き彫りとなった。本研究から得られた知見は、地域コミュニティ全体の連携を深め、持続可能な世代間交流プログラムの構築に貢献する可能性を示していると考ええる。

6 まとめ・今後の提案

研究を通じて、紙芝居の読み聞かせが世代間の対話を促進し、相互理解や感情の共有を深めることが明らかになった。特に、学生が主体となることで、高齢者との自然な交流が生まれ、地域ごとの特性を活かした持続可能な世代間交流モデルの構築につながる可能性が示された。また、紙芝居を通じたつながりが、高齢者の孤立解消や地域の活性化に寄与することも期待される。

今後の展望として、まず「紙芝居の活用方法の発展」が挙げられる。地域の歴史や文化を題材にした紙芝居の制作や、多世代交流を促すテーマの導入が有効だろう。次に、「持続可能な運営モデルの構築」として、地域コミュニティや企業との連携を強化

し、学生のモチベーション維持の仕組みを整えることが求められる。さらに、「デジタル技術の活用」として、オンライン紙芝居を導入し、遠方の高齢者とも交流できる環境を整えることも重要だ。これらの取り組みを通じて、新たな世代間交流の形を確立し、地域社会の活性化に貢献していきたい。

7 引用・参考文献

- ・糸井和佳ら (2012) 「地域における高齢者と子どもの世代間交流プログラムに関する効果的な介入と効果-文献レビュー-」『日本地域看護学会誌』15(1), 40-41.
- ・子どもの文化研究所 (2015) 「紙芝居・演じ方のコツと基礎理論のテキスト」『一声社』92-96.
- ・桜井良太 (2018) 「絵本読み聞かせ世代間交流プログラム「りぷりんと」」『東京都健康長寿医療センター研究所』.
- ・浜崎隆司・黒部みゆき (2017) 「絵本の読み聞かせがその後の人生に及ぼす影響-テキストマイニング法を用いて-」『鳴門教育大学研究紀要』32, 89-90.
- ・原田留美 (2018) 「紙芝居のテキストの特徴-物語の魅力を伝える読み聞かせのために知っておきたいこと-」『新潟青陵』11(1), 14-15.
- ・まついのりこ (1998) 「紙芝居・共感のよろこび」『童心社』43-44.
- ・森慶子 (2015) 「絵本の読み聞かせの効果の脳科学的分析・NIRSによる黙読時、音読時との比較・分析」『読書科学』56(2), 96-97.
- ・泰羅雅登 (2009) 『読み聞かせは心の脳に届く』くもん出版
- ・内閣府 (2003) 「平成 15 年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」
https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h15_sougou/html/2-22.html